

# 環境経営レポート

2022年度版（2022年4月～2023年3月）

拝啓 ゴミさま

私たちに、便利で豊かな  
生活を与えてくれて、  
ありがとうございました。

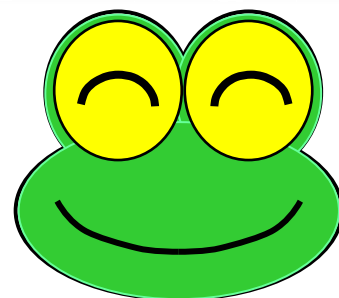
返信

私達は、まだまだ  
役に立ちたいです！  
ゴミより

株式会社タズミ

  
**Tazumi**

発行年月日:2023年5月18日



ごみが生きかえる!!

# 環境経営方針

## 環境理念

タズミは、「不要になったものを、可能な限り有効活用する」という精神で、限りある資源の循環活用であるリサイクル事業を通して、社会貢献して参ります。

## 行動指針

タズミの事業の環境効果を良く理解し、その事業の推進を図り、事業活動における環境負荷低減を推進します。

1. 廃棄物の収集運搬、中間処理をはじめとする、各種サービスの提供を通して、廃棄物の削減、再利用、再資源化、省エネルギー活動及び節水等を推進します。
2. 二酸化炭素の排出抑制効果の高い廃棄物の燃料化事業を推進します。  
又、この事業の意義や効果について、従業員・事業者・市民への周知啓蒙活動に努めます。
3. 環境に関連する法令・規制を遵守し、継続的に汚染の予防に努めます。
4. SDG's が目指す持続可能な将来の為に、目標を立て計画をして、事業を通して実現していきます。
5. 外的要因、内的要因による課題を十分に検証し、事業のチャンスとなるように目標を立て計画し改善に取り組みます。
6. 環境管理活動の目的・目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員がそれぞれの役割に応じて、創意をもって環境管理活動を推進します。
7. 代表者による取組状況の評価と全体的な見直しの実施により、活動状況を確認し、改善及び是正を行い、施策を推進するとともに、環境マネジメントシステムの維持、並びに継続的改善に努めます。
8. 従業員に対する環境教育を計画的に実施し、環境保全に対する意識の向上に努めると共に、従業員一人ひとりが良き企業市民として行動します。
9. 環境経営方針は、すべての従業員に周知するとともに、環境活動レポートやホームページを通じて、社外にも公開します。

2020年 4月 1日

神奈川県綾瀬市吉岡709

株式会社 タズミ

代表取締役 田墨幸一郎

環境経営方針	頁
目次	
1. 組織の概要	1 - 7
2. 処理・リサイクル実績	8
3. 環境経営目標	
3. 1 中期環境経営活動目標（3か年）、目標と実績推移	9
3. 2 中期環境経営目標計画に基づいた2022年度活動実績	10
4. 環境活動計画	
4. 1 境活動計画（2022年度取組表）	11
4. 2 2022年度各部門による活動実績（取組み結果）	12、13
5. 「プラタンの森計画」実績報告	14
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	15
7. 環境測定の実施結果の記録	16
8. 取組結果とその評価、及び次年度の取組内容	17
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	18
10. 新中期活動計画	
10. 1 新中期活動目標	19
10. 2 2023年度環境活動計画	20
11. その他、活動実績資料	
11. 1 各部門 活動実績	21-23
11. 2 廃棄物処理委託先の施設見学	24
11. 3 消防設備設置	25
11. 4 環境保全関連寄付の実施	26
11. 5 「JISマーク表示認証」の取得	27



## 1. 組織の概要

### 1) 事業所名及び代表者名

- ・株式会社タズミ
- ・代表取締役 田 墨 幸 一 郎
- ・法人設立年月日 1984（昭和59）年 8月 1日

### 2) 認証・登録範囲（事業所） (所在地)

- ・本社・吉岡リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市吉岡709
- ・早川RPF工場 神奈川県綾瀬市早川2647-35
- ・早川第2工場 神奈川県綾瀬市早川2647-32
- ・早川リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市早川2275-1
- ・プラターン海老名工場 神奈川県海老名市上郷4-2-8
- ・海老名第2工場 神奈川県海老名市上郷4丁目2710-14

### 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- ・責任者 常務取締役 田墨 啓治
- ・担当者 管理課 伊延敏和、永瀬優一
- ・連絡先 電話 0467-77-1847 FAX 0467-77-1936

### 4) 認証・登録対象活動

- ・可燃性廃棄物を原料とする再生固形燃料の製造及び販売
- ・産業廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再資源化处理)
- ・一般廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再生固形燃料化)
- ・資源リサイクル業（古紙・鉄くず・非鉄・アルミ・プラスチック・ガラス）

### 5) 事業の規模

- ・資本金 2,000万円
- ・事業規模を 表1 に示す

表1 事業規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度
		2020.4~2021.3	2021.4~2022.3	2022.4~2023.3
売上高	百万円	1,203	1,290	1,310
従業員	人	64	60	60
延べ床面積	m <sup>2</sup>	7,999	7,999	7,999
工場床面積	m <sup>2</sup>	4,233	4,233	4,233
受入廃棄物保管量	m <sup>2</sup>	2,562	2,562	2,562
処理後物保管量	m <sup>2</sup>	1,745	1,745	1,745

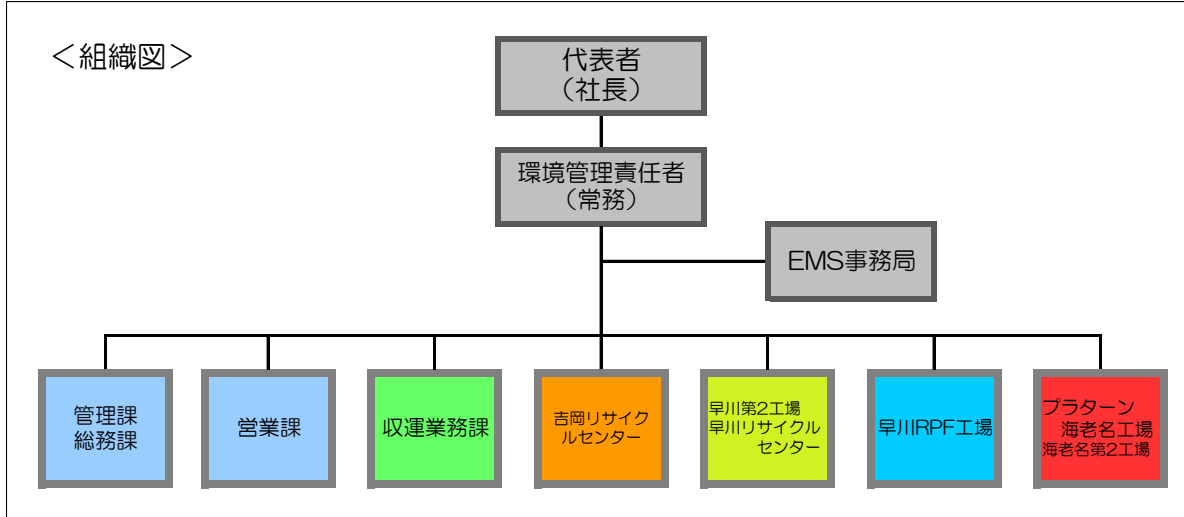
1. 組織の概要

6) 組織図

組織図を図1に示す。

図1 環境管理実施体制

2023年3月31日現在



環境経営システムに関する責任・権限は表2に示す。

表2 環境経営システムに関する責任・権限

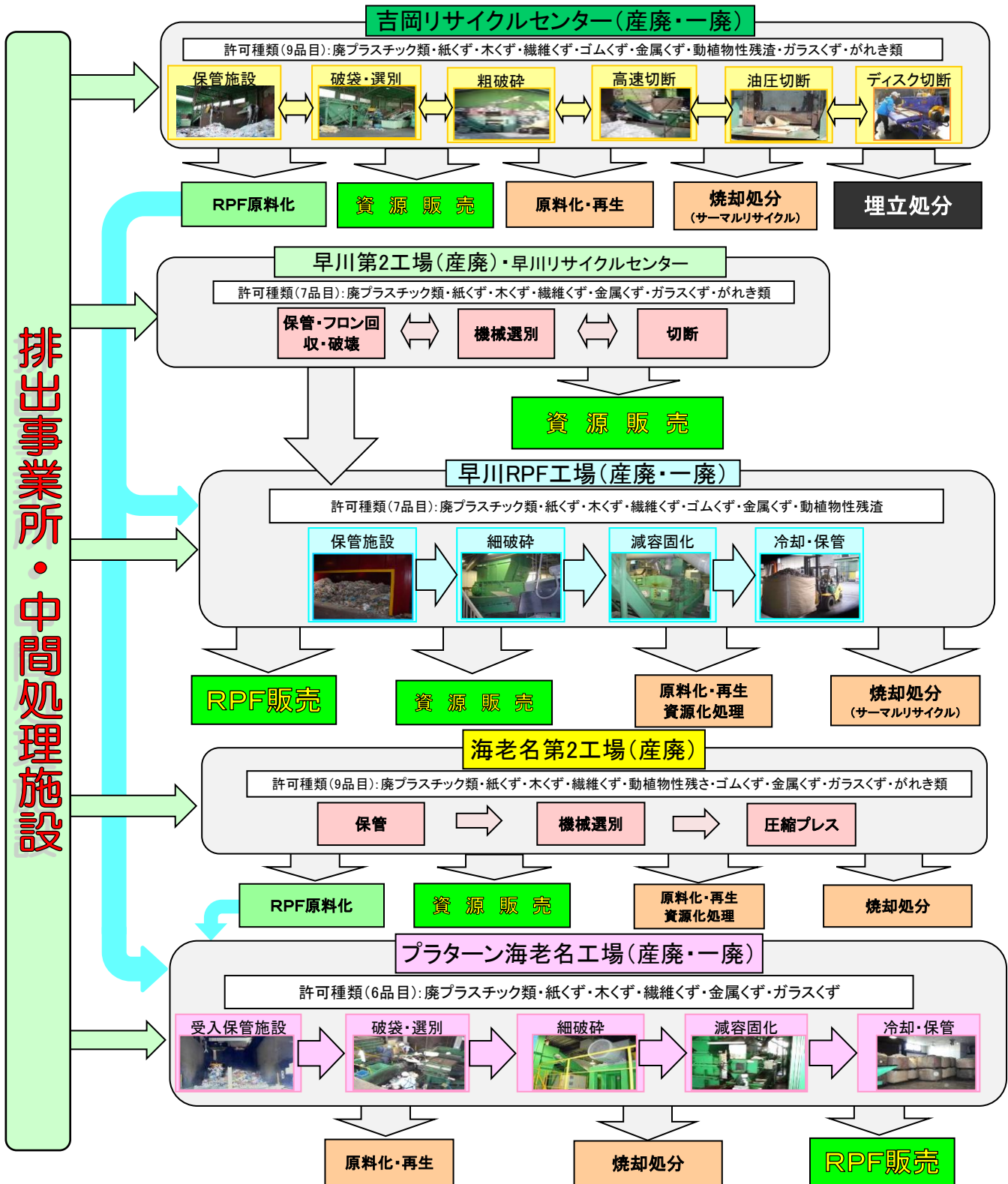
環境経営システムに関する責任・権限	
代表者 (社長)	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の策定 3. 環境経営システム実施及び官吏に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的な見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者 (常務)	1. 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置 2. 社長に対し、環境経営システムの実績報告 3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施の責任者 4. 外部からの環境に関する苦情や要望の受付窓口
EMS事務局	1. 環境管理責任者の補佐、EMS推進事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 3. 環境目標、環境活動計画書原案の作成 4. 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5. 環境活動レポートの作成
各部門長	1. 環境活動の計画・実施の部門責任者 2. 改善活動の推進
一般従業員	1. 環境活動計画に基づいた環境活動及び業務改善活動の推進



1. 組織の概要

8) 処理フローを図2に示す。

図2 処理フロー図（社内処理相関図）



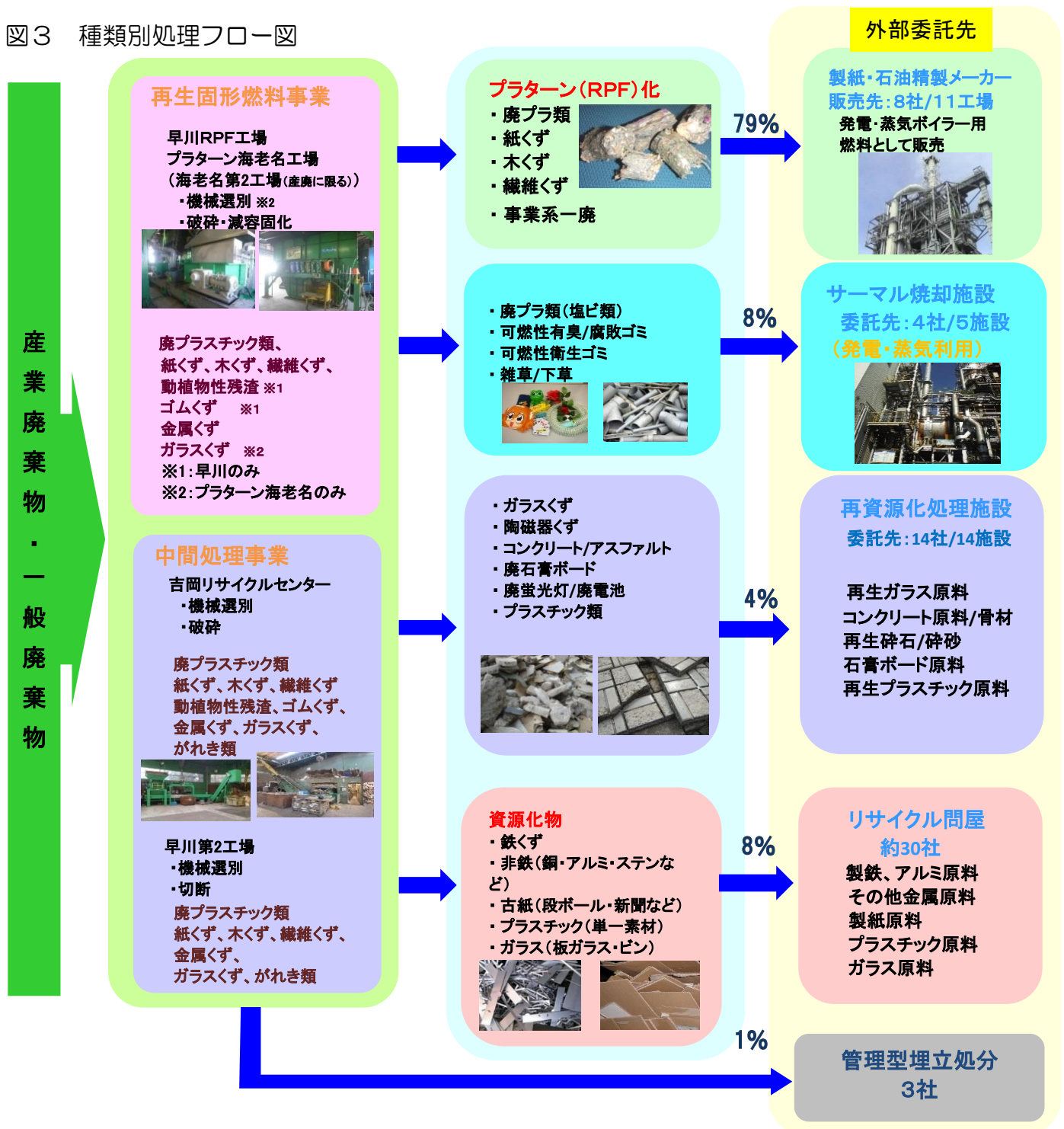


1. 組織の概要

9) 種類別処理フローを図3に示す。

排出事業者から処理を受託した様々な廃棄物は、お客様の要望を踏まえ、再生資源化・燃料化を行っています。処理の出来ないものに関しては、環境負荷の少ない方法で外部委託処理を行っています。

図3 種類別処理フロー図







## 1. 組織の概要

### 1.1) 廃棄物収集運搬車両の環境性能の状況

- ・低排出ガス規制適合については表8に、低燃費車導入については表9に示す。

表8 廃棄物収集運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

収集運搬車の排ガスレベル	台数（比率） R5年3月末時点		【参考】台数（比率） H24年3月時点	
	全保有台数	30台	(100%)	19台
①平成15年規制適合車	0台	(0%)	1台	(5%)
②平成17年規制適合車	2台	(7%)	4台	(21%)
③平成17年基準低排出ガス車50%低減 ☆☆☆	1台	(3%)	0台	(0%)
④平成17年基準低排出ガス車 ☆☆☆☆	0台	(0%)	0台	(0%)
⑤平成17年基準低排出ガス（PM10%低減）重量車 ☆	0台	(0%)	2台	(11%)
⑥平成17年基準低排出ガス（Nox及びPM10%低減）重量車 ★	0台	(0%)	1台	(5%)
⑦平成19年規制適合車	1台	(3%)	0台	(0%)
⑧平成22年（ポスト新長期）排出ガス車	4台	(13%)	0台	(0%)
⑨平成21年基準低排出ガス車10%低減☆☆☆	4台	(13%)	0台	(0%)
⑩平成22年基準低排出ガス車10%低減	9台	(30%)	0台	(0%)
⑪平成28年規制適合	9台	(30%)	0台	(0%)
低排出ガス車以外の車両	0台	(0%)	11台	(58%)

表9 廃棄物収集運搬車に係る低燃費車の導入状況

収集運搬車の燃費低減レベル		台数（比率） R5年3月末時点		【参考】台数（比率） H24年3月時点	
		全保有台数	30台	(100%)	19台
平成22年度燃費基準達成車	① —	0台	(0%)	1台	(5%)
	②5%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
	③10%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
	④15%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
	⑤25%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
平成27年度燃費基準達成車	⑥ —	20台	(66.7%)	2台	(11%)
	⑦ 5%低減レベル	7台	(23.3%)	0台	(0%)
	⑧10%低減レベル	3台	(10.0%)	0台	(0%)
低燃費基準達成車以外の車両		0台	(0.0%)	16台	(84%)

\* 低燃費基準達成車以外の車両については導入してから15年以上メンテナンスを行いながら大事に使用しています。

\* 22年度は15年以上使用した車両を入れ替え、2tAT車を導入しました。

## 2. 処理・リサイクル実績

受託廃棄物の処理量と資源リサイクル量を表10に示す。

表10 受託廃棄物の処理量 及び資源リサイクル量

(単位：t)

廃棄物の種類		処分方法	2020年度	2021年度	2022年度
収集運搬量	一般廃棄物収集運搬量		1,565	1,757	1,658
	産業廃棄物収集運搬量		6,682	7,122	7,305
	収集運搬合計		8,247	8,879	8,962
中間処理 処分量	一般廃棄物処分量	固形燃料化・選別	2,087	2,040	2,076
	産業廃棄物処分量	機械選別・破砕 ・減容固化	14,176	14,773	14,667
	処分量合計		16,263	16,813	16,743
再資源化	再生固形燃料出荷量	固形燃料化量	11,938	12,442	12,404
	古紙出荷量	機械選別/再資源化	4	6	5
	鉄・非鉄原料出荷量	機械選別/再資源化	979	1,198	1,093
	木チップ原料出荷量	機械選別/再資源化	31	0	0.0
	プラスチック出荷量	機械選別/再資源化	15	10	52
	再資源化合計		12,966	13,656	13,554
資源リサイ クル量	古紙類（処理後再生分含む）		1,597	1,587	1,504
	鉄原料（処理後再生分含む）		1,093	1,111	1,343
	非鉄原料（処理後再生分含む）		856	832	694
	ガラス原料（処理後再生分含む）		49	137	145
	再生プラスチック原料（処理後再生分含む）		74	84	135
コメント	2022年度は、コロナウイルス感染症の拡大に伴って、まん延防止等重点措置が継続し、廃棄物の発生量が少なくなる中で、収集運搬量、処分量ともにほぼ変わりなく健闘しました。資源リサイクル量については、鉄スクラップの回収が増加、再生プラスチックもペットボトル他マテリアル向けに出荷出来ました。非鉄原料（処理後再生分含む）は減となりました。				

### 3. 環境経営目標

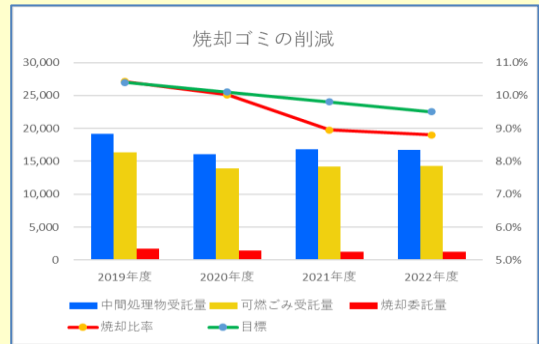
#### 3.1 中期環境経営活動目標（3か年）、目標と実績推移

2019年度を基準値として、環境負荷の少ない燃料化事業を推進し、温暖化ガス排出量抑制に努めます。

#### 受託可燃廃棄物の焼却委託比率 ※目標 3ヶ年で0.9%削減

可燃混合物からのRPF原料化、サーマル焼却向け選別の徹底。  
処理方法を活かしたRPF原料調達への取組みを強化します。

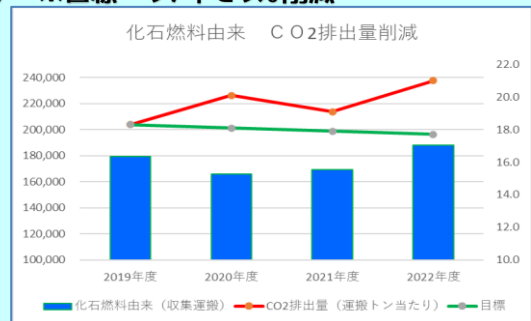
項目	年度	2019年度 基準値	2020年度	2021年度	2022年度	
1	中間処理物受託量	t	19,138	16,041	16,787	16,719
	可燃ごみ受託量	t	16,344	13,912	14,229	14,263
	焼却委託量	t	1,703	1,394	1,273	1,250
	焼却比率	%	10.4%	10.0%	8.9%	8.8%
	目標	%	10.4%	10.1%	9.8%	9.5%



#### 化石燃料由来の二酸化炭素排出量（廃棄物運搬量1t当たり排出量） ※目標 3ヶ年で3%削減

燃料使用量を下げるべく、ルートの見直し、回収頻度の見直し、回収車両の見直し（新車導入を含む）等、業務改善を実行します。

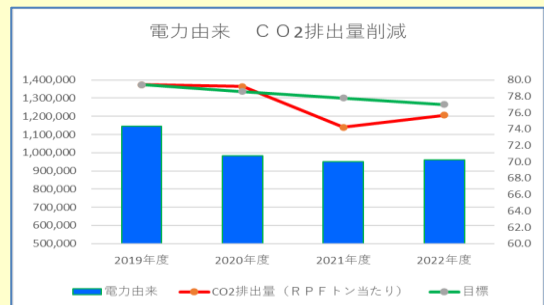
項目	年度	2019年度 基準値	2020年度	2021年度	2022年度	
2	廃棄物収集運搬量	t	9,796	8,260	8,879	8,962
	化石燃料由来（収集運搬）	kg-CO <sub>2</sub>	179,527	165,864	169,308	188,241
	CO <sub>2</sub> 排出量（運搬1t当たり）	kg-CO <sub>2</sub> /t	18.3	20.1	19.1	21.0
	目標	kg-CO <sub>2</sub> /t	18.3	18.1	17.9	17.7



#### 電力由来の二酸化炭素排出量（RPF生産1t当たり） ※目標3ヶ年で3%削減

地球環境保全の為、可燃ごみの再生固形燃料（RPF）を推進し製造時のCO<sub>2</sub>の排出量も最小化を目指します。

項目	年度	2019年度 基準値	2020年度	2021年度	2022年度	
3	RPF生産量	t	14,412	12,406	12,819	12,681
	電力由来	kg-CO <sub>2</sub>	1,144,772	982,410	950,605	959,772
	CO <sub>2</sub> 排出量（RPF1t当たり）	kg-CO <sub>2</sub> /t	79.4	79.5	74.2	75.7
	目標	kg-CO <sub>2</sub> /t	79.4	78.6	77.8	77.0



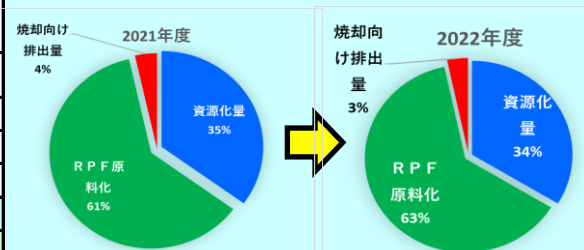
#### ◇二酸化炭素排出量（化石燃料由来、電力由来）の総量実績推移：全社全部門

項目	年度	2019年度 基準値	2020年度	2021年度	2022年度
CO <sub>2</sub> 排出総量	kg-CO <sub>2</sub>	1,831,008	1,464,579	1,425,762	1,443,324

#### 自社焼却向け廃棄物排出量 ※目標3ヶ年で9%削減

事務所から出る自社ゴミは、分別を徹底し、再生資源化を原則とする。可燃ごみは、RPF化原料とし、生ごみなど処分の必要なものに限って焼却処分とする。

項目	年度	2019年度 基準値	2020年度	2021年度	2022年度	
4	自社廃棄物総量	kg	1,441.0	1,529.5	1,383.1	1,268.4
	資源化量	kg	592.5	631.6	484.5	427.7
	RPF原料化	kg	771.5	847.2	850.2	798.2
	焼却向け排出量	kg	77.0	50.7	48.4	42.5
	目標	kg	77.0	75.0	72.4	70.0







### 3. 環境経営目標

#### 3.2 中期環境経営目標計画に基づいた2022年度活動実績

中期環境経営目標計画により、サーキュラーエコノミーを推進し、カーボンニュートラルに貢献する燃料化事業を推進、事業活動に伴う温暖化ガス排出量を管理し、排出抑制の為に具体的取組みを実施しました。

項目	年度	基準値	2020年度	2021年度	2022年度			
			2019年度	実績	実績	目標	実績	評価
1 受託可燃廃棄物中の 焼却委託比率 ◇目標 0.9%削減	可燃ごみ受託量	t	16,344	13,912	14,229	-	14,263	○
	焼却委託量	t	1,703	1,394	1,273	-	1,250	
	焼却比率	%	10.4	10.0	8.9	9.5	8.8	
2 化石燃料由来の 二酸化炭素排出量 (廃棄物運搬量1t当たり 排出量) ◇目標 3%削減	化石燃料由来 (収集運搬)	kg-CO <sub>2</sub>	179,527	165,864	169,308	-	188,241	×
	収集運搬量 (一廃・産廃)	t	9,796	8,260	8,879	-	8,962	
	CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /t	18.3	20.1	19.1	17.7	21.0	
3 電力由来の 二酸化炭素排出量 (RPF生産1t当たり) ◇目標 3%削減 注1) (排出係数を0.442に変更)	電力由来	kg-CO <sub>2</sub>	1,144,772	982,410	950,605	-	959,772	○
	再生固形燃料 プラタン生産量	t	14,412	12,406	12,819	-	12,681	
	CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /t	79.4	79.5	74.2	77.0	75.7	
4 自社排出廃棄物の 焼却処分量 ◇目標 9%削減	自社廃棄物総量	kg	1,441	1,530	1,383	-	1,276	○
	自社焼却向け 排出量	kg	77.0	50.7	48.4	70.0	42.5	

以下の4項目は、環境マネジメントシステムの要求事項ではあるが目標設定は行わない。ただし、環境影響度合いの高い重要項目であるため、監視項目として変化を管理する。必要に応じ、都度対策を実施するものとする。

監視3項目	2020年度から2022年度まで	2022年度実績
1 事務用品のグリーン購入 推進（環境負荷の少ない） を促進する。	事務用品は、購買ルールを順守し、購入サイトwebページ上からの購入励行。月次で購入比率を確認します。	今年度もルール通りに運用でき、グリーン購入化率も60.2%の実績となった。
2 再生固形燃料 プラタンの生産量： 15,000 t/年を目指す。	安定した生産体制を維持し、燃料化への取り組みを全社取組みとして計画する。処理体制の整備、具体的な増量案件の積上げ等、諸策を講じていく。エコアクション21の年度計画とはしない。	再生固形燃料生産量は、2019年度14,412 tだったが、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻等で、廃棄物発生量が減少し、2020年度以降 12,000 t 台と低迷している。
3 水：上水使用量を監視する	各部門とも前年度実績を踏まえ、定期的に使用量を確認し、異常が認められた場合は原因を突き止め、逐次対策を講じる	製品製造時に使用する中で、日頃から監視状況を怠ることなく、メンテナンス清掃時の使用量にも配慮し削減につなげました。
4 化学物質：排出量を把握する	購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する	屋外床面滑り止め塗料など（VOC値35.6 kg）購入しました。

## 4. 環境活動計画

### 4.1 環境活動計画（2022年度） 取組内容を表11に示す。

表11 環境活動計画取組表

活動項目	管理及び実施項目	推進部門 <sup>注1)</sup>							注1) ◎ 主管部門 ○ 活動として取り組む部門
		営業・管理課	運搬業務課	吉岡Rセンター	早川第2工場	早川RPF工場	海老名第2工場	PT海老名工場	
受託可燃廃棄物中の焼却委託比率の低減	作業手順・段取りの見直しによる選別作業効率の改善			◎	◎	○	○		燃料化原料の知識を習得し、適切な作業方法を確立する。
	工場部門との連携による燃料化比率の向上	◎	○	◎	◎	◎	○		案件毎に工場側に選別品の検証を要請し、結果を確認し都度対策を取る。
化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出量比の低減	車両・重機類の日常・定期点検の実施	○	◎	◎	◎	○	○		点検結果に基づいた対処を迅速におこなう。
	エコドライブの推進と実績の監視	○	◎	◎	◎	○	○		無理な配車をせずに、ドラレコ等を活用し、エコドライブを励行する。
	車両・重機類の効率的な燃料使用の励行	○	○	○	○	○	○		効率的な作業計画を作成しエコ操作の励行に取り組む。
	高環境性能車両への更新	◎	◎	◎					エンジンフォークリフトからバッテリーフォークリフトに更新する。
電力由来のCO <sub>2</sub> 排出量比の低減	設備・機械の日常・定期点検の実施			○	○	◎	◎		日々の生産効率を確認しメンテナンスを適切におこなう。
	デマンド監視と効率の良い作業の実践					◎	◎		処理物の状態等に合わせ効率作業を励行。結果は日/月次の作業効率・生産性で確認
自社排出廃棄物の焼却処分量削減	自社廃棄物の分別を徹底し、焼却処分ごみを削減する	○	○	○	○	○	○	◎	各部署で、資源化ゴミと燃料ゴミを分別して、焼却処分ごみを削減する
DX導入の検討と推進	電子マニフェスト推進(紙マニフェスト購入件数の削減・事務作業軽減)	◎	◎					◎	マニフェストの年間発行枚数、電子マニフェスト発行枚数を確認
	運行管理システム導入による業務改善	◎	◎					◎	データ活用による回収効率、伝票レス化による作業効率の改善に取り組む。

自社廃棄物排出量については、分別排出の徹底が行われ、資源化・燃料化が進んだ。  
今後は、監視項目とする。

#### 4. 環境活動計画

##### 4.2 2022年度各部門による活動実績（取組み結果）-1

### 受託可燃廃棄物の焼却比率の削減

#### 吉岡リサイクルセンター

昨年に引き続き、可燃混合ゴミのRPF原料化のため、選別ラインの活用に努めました。又、量について、積極的な受入れを継続しました。



単位：トン

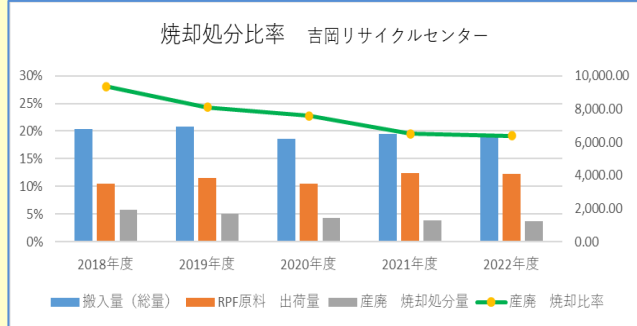
吉岡リサイクルセンター	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
搬入量（総量）	6,812.69	6,932.91	6,176.74	6,491.96	6,495.28
RPF原料 出荷量	3,484.96	3,818.44	3,489.44	4,138.65	4,108.28
産廃 焼却処分量	1,913.29	1,684.30	1,407.78	1,266.15	1,242.82
産廃 焼却比率	28%	24%	23%	20%	19%

★3%削減 ★1%削減

単位：トン

吉岡リサイクルセンター	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
量 受入数量	475.71	595.01	766.56	1,074.54	1,182.11

★40%増 ★10%増



#### 早川第2工場、早川工場

さまざまな廃棄物について多くの再資源化が推進され、RPF原料化にも積極的に取組み、前年比で137%と貢献できました。又、プラ促進法による排出事業者の要望にも対応し、金属解体後のプラ再生にも対応をおこなえました。



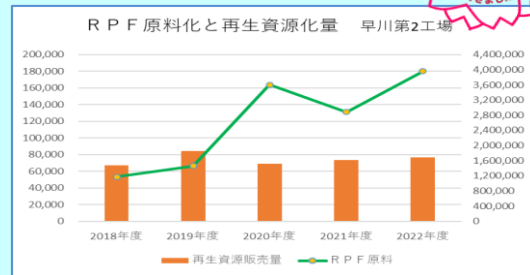
単位：kg

早川第2工場	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
RPF原料化量	53,440	66,320	163,860	131,100	179,860

★37%増

再生資源販売量	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	1,475,919	1,849,701	1,520,275	1,620,633	1,679,716

★3.6%増



### 化石燃料由来の二酸化炭素排出量（廃棄物運搬量1t当たり）削減

#### 収運業務課

燃料費が高騰する中、エコドライブに努め、燃費効率は、前年に代わりなく推移しました。コロナウィルス感染拡大続く中で、一旦落ち込んだ回収量は、昨年度も微増となりました。回収効率は、移動距離、ごみの発生量で左右されますが、タブレット端末に蓄積されたデータ解析をおこなうなど、IoT推進とともに改善を進めていきます。

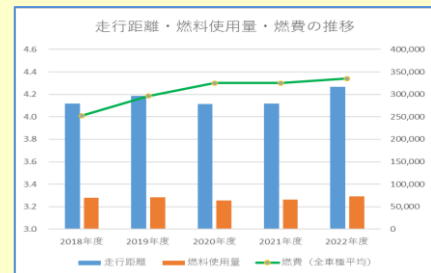


収運業務課	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
走行距離	km	279,279	297,091	278,678	279,780	316,668
燃料使用量	ℓ	69,635	70,983	64,330	65,623	72,961
燃費（全車種平均）	km/ℓ	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3

★燃費は、維持

収集運搬量	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
トン当たり走行距離	km/t	29	30	34	32	35

★t当たりの走行距離増



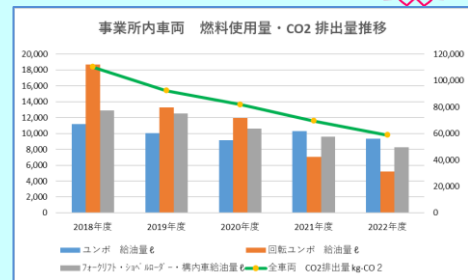
#### 吉岡リサイクルセンター

燃料費が高騰する中で場内で使用する2台の重機（ユンボ）について、改めて使用状況を検証し、作業方法の無駄を見直すことで対象作業を減らすことが出来ました。又、フォークリフト1台をバッテリーフォークにすることによりCO2排出量を削減できました。



吉岡センター	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ユンボ 給油量	ℓ	11,158	10,012	9,176	10,324	9,328
回転ユンボ 給油量	ℓ	18,684	13,277	11,942	7,032	5,193
フォークリフト・ショベル・構内車給油量	ℓ	12,915	12,535	10,595	9,605	8,249
場内車両 合計給油量	ℓ	42,757	35,824	31,713	26,961	22,770
全車両 CO2排出量	kg-CO <sub>2</sub>	110,313	92,426	81,820	69,559	58,747

★15%削減



#### 4. 環境活動計画

##### 4.2 2022年度各部門による活動実績（取組み結果）-2

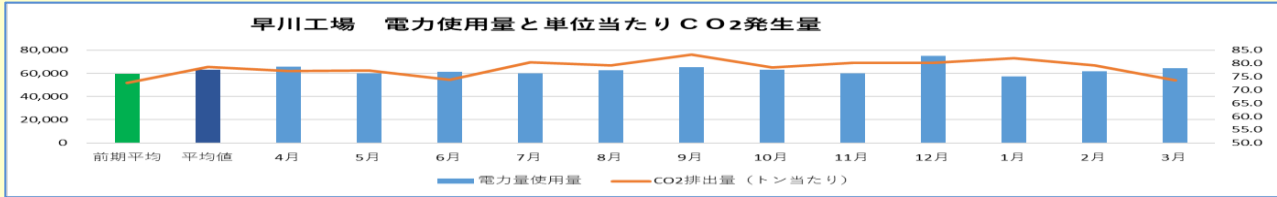
### 電力由来の二酸化炭素排出量（RPF1t生産当たり）削減

#### 早川工場

成形機を入替えした事で、モーターの消費電力が増加。又、破碎機の刃物損傷が多発した事により、破碎効率が低下しました。今後対策を実行していきます。



早川工場	前年平均	平均値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
電力量使用量	59,420	63,001	65,750	59,813	61,234	59,837	62,690	65,286	63,044	59,869	74,903	57,267	61,738	64,582
CO <sub>2</sub> 排出量（t当たり）	72.6	78.7	77.0	77.3	73.9	80.4	79.2	83.3	78.6	80.1	80.3	82.1	79.3	73.6

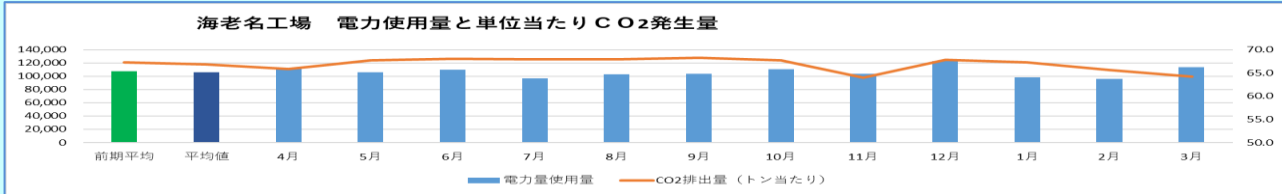


#### 海老名工場

成形機の仕様変更で電力使用量は減りました。今後、生産オペレータの技術水準を上げて生産性向上を図るとともにCO<sub>2</sub>発生量抑制に努めます。



海老名工場	前年平均	平均値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
電力量使用量	107,420	106,216	111,895	105,552	109,841	96,726	102,557	103,630	110,325	103,400	122,875	98,418	96,038	113,334
CO <sub>2</sub> 排出量（t当たり）	67.3	66.8	65.9	67.7	68.0	67.9	67.9	68.2	67.7	63.9	67.8	67.3	65.6	64.2



### 上下水道の使用量を監視する。

#### 早川工場

早川工場では、製品製造に際し、集塵機と製品冷却に水を使用しており、設備の稼働時間とバルブ調整によって使用量が増減する。そのため、日々の監視対象としてきた。今期は、10月より生産量1t当たりの水使用量が増え調査をおこなったが、漏水箇所が特定出来なかった。その後、12月に優良な専門業者が見つかり、使用していない埋設配管の水漏れ箇所が判明し適切に修理出来ました。日々の監視の重要性を認識する良い機会となりました。



早川工場	単位	9月	10月	11月	12月	1月	2月
水使用量	m <sup>3</sup>	77.8	89.6	92.2	104.9	79.5	70.7
	m <sup>3</sup> /日	3.4	3.8	4.0	4.6	4.0	3.7
	m <sup>3</sup> /t	0.22	0.25	0.28	0.25	0.26	0.21

#### 営業・管理・総務課

収集運搬業務で発行する紙伝票レス化のために運用を開始したタブレットの運用を軌道にのせることができた。今後は、開発メーカーと共に運用で蓄積されるデータを分析して、どのようなことが出来るかを明らかにして作業効率の改善につなげていきたい。





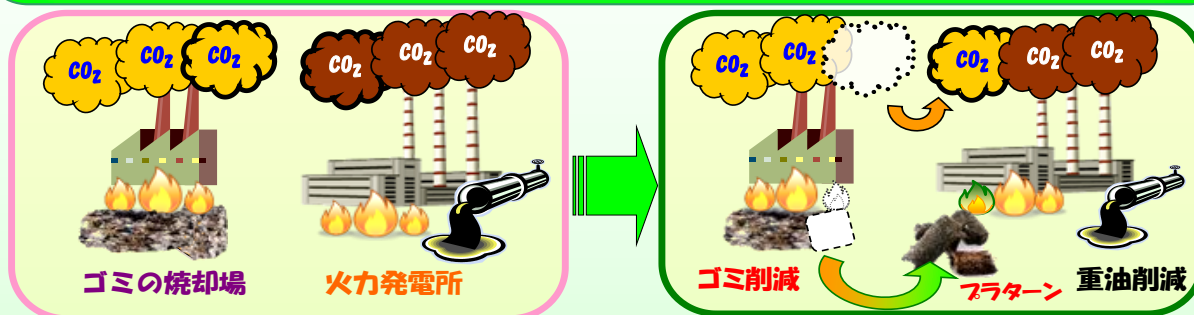
5. 「プラターンの森計画」実績報告

タズミが推進する再生固形燃料（RPF）化について

※「プラターン」は、タズミ製固形燃料の商品名です

# プラターンの森計画

## 可燃性廃棄物燃料化事業の環境負荷低減効果の表現



煙が1つ減る!



排出抑制された量のCO<sub>2</sub>を  
吸収する杉林の面積で表現

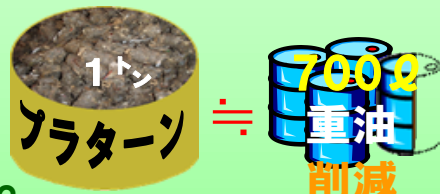
35年生杉  
約200本



2,100m<sup>3</sup>

節約した重油由来分のCO<sub>2</sub>排出を抑制

- >プラターン1トンを重油700ℓ節約
- >重油700ℓから発生するCO<sub>2</sub>は約2トンのCO<sub>2</sub>排出
- >プラターン1トンを約2トンのCO<sub>2</sub>排出抑制効果がある。



直接効果

【焼却ごみのうち1トンをプラターン(再生固形燃料)に加工すると】  
その熱量は重油700ℓ分に相当します。上図の減った煙1つは、重油700ℓの燃焼で発生する約2トンのCO<sub>2</sub>です。一方、1年間に2トンのCO<sub>2</sub>を吸収固定する杉林の面積は約2,100m<sup>2</sup>で、その杉の本数は約200本になります。

つまり、焼却ごみから1トンのプラターンを製造・利用することは、2,100m<sup>2</sup>の杉林（200本の杉の木）を1年間保全したのと同じ効果がある事になります。この仮想の森を維持拡大することが「プラターンの森計画」であり、当社の燃料化事業の環境効果です。

2022年度の《プラターンの森》は

- ★プラターンの出荷実績：12,404トン（重油換算8670kℓ）<sup>⑩</sup>
- ★排出抑制されたCO<sub>2</sub>二酸化炭素は、24,697トン-CO<sub>2</sub>
- ★プラターンの森の広さは、26km<sup>2</sup>、杉の本数では約260万本でした



⑩ プラターンの森では、プラターン出荷(販売)実績数量で計算していますが、環境活動では生産数量を使用しているため、森の面積やCO<sub>2</sub>排出抑制量等で、表現数値に違いが出ます。

## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況の確認

2023年3月31日 確認

### ○環境関連法規のチェック

法令等名称	適用項目	主な要求内容	前回確認からの変更点	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	許可の更新・変更	5年毎の許可更新（優良は7年）	東京都産業廃棄物収集運搬業の許可更新申請、隔年ごとに申請の必要な一般廃棄物の収集運搬および処分業許可更新が完了しました。又、来期5月に期限の産業廃棄物処分業の許可更新更新手続きを実行し、事前の更新審査もクリアしました。	
騒音規制法・振動規制法・悪臭規制法・神奈川県生活環境保全条例	騒音・振動・悪臭の規制基準の順守	指定地域内によりその場所ごとの規制基準値を超えないようにする。	騒音・振動・臭気についての基準はすべてクリアしました。近隣住民などから苦情もなく、来期以降も年に一度の検査を行っていきます。	

### ○その他の環境法令チェック

・グリーン購入法	✓	・綾瀬市火災防止条例	✓
・家電リサイクル法	✓	・綾瀬市環境等関連条例	✓
・下水道法	✓	・海老名市環境保全条例	✓
・消防法	✓	・海老名市廃棄物の減量化、資源化、適正処理等に関する条例	✓
・電気事業法	✓	・海老名市火災防止条例	✓
・フロン排出抑制法（旧フロン類回収破壊法）	✓		

### ○環境法令以外の法令チェック

・労働安全衛生法	✓	・プラスチック資源循環促進法	✓
・道路運送車両法	✓	・道路交通法	✓
・道路法	✓		

環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

○法令違反・訴訟等はありませんでした。

その他、事業活動に伴った環境関連クレームや要望の有無

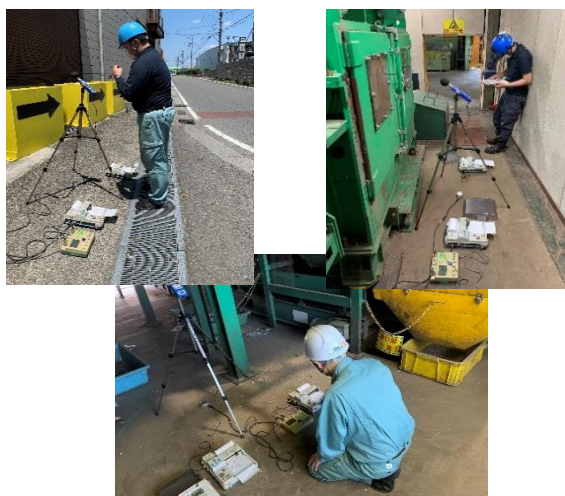
○地域住民・顧客・自治体・消費者のいずれからも、クレームはありませんでした。



## 7. 環境測定の実施結果の記録

- 騒音・振動測定：吉岡リサイクルセンター・早川RPF工場・プラターン海老名工場 毎年/1回実施
- 臭気測定：早川RPF工場・プラターン海老名工場 毎年/1回実施

### ◇海老名工場



### ◇早川工場



### 2022年度 環境測定記録・結果

いずれの事業所も規制値をクリアしている。

吉岡リサイクルセンター 騒音・振動		破砕施設		高速切断施設		油圧切断施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2022/5/25実施	騒音規制値 55dB以下	50	51	54	54	48	47
	振動規制値 65dB以下	30	30	45	47	52	48

早川RPF工場 騒音・振動		成形施設		破砕施設A		破砕施設B	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2022/5/24実施	騒音規制値 75dB以下	72	73	67	63	67	65
	振動規制値 70dB以下	70	63	69	65	63	68

早川RPF工場 臭気		脱臭排気施設		溜水式集塵施設	
		前期	今期	前期	今期
2022/6/20実施	臭気規制値 35以下	32	21	24	14

早川RPF工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2022/6/20実施	敷地境界規制値 15以下	10未満	10未満

※海老名工場の測定は、前期に成形機入替工事があった為、1月の測定となっております。

プラターン海老名工場 騒音・振動		選別施設		破砕施設		成形施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2022/5/24実施	騒音規制値 75dB以下	68	62	60	68	58	54
	振動規制値 70dB以下	39	57	63	56	59	56

プラターン海老名工場 臭気		排出口①		排出口②		排出口③		排出口④	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期
2022/6/27実施	臭気規制値 30以下	16	12未満	12	12未満	24	12未満	12未満	12未満

プラターン海老名工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2022/6/27実施	敷地境界規制値 15以下	10未満	10未満





8. 取組結果とその評価、及び次年度の取組内容

環境活動計画の取組結果とその評価

取組結果を表12に示す。



○：取り組み、目標達成  
 △：取り組んだが目標未達成  
 ×：取り組めなかった

表12 環境活動計画の取組結果

項目	取組結果の評価	
受託可燃廃棄物中の焼却委託比率の低減	○	39期早川第2では多くの再資源化が推進され、RPF原料化にも積極的に取り組み前年比137%と貢献できた。又、プラ促進法による排出事業者の要望にも対応し金属解体後のプラ再生の取り組みを行なえた。吉岡RCでは、焼却処分から燃料原料化は横ばいであった。RPF需要がある中で低品位なRPFの需要もあることから、受入対象範囲の見直しを行ない、RPF原料化、再資源化を増量して行きたい。
化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	×	「運搬1t当りのCO <sub>2</sub> 排出量」は、目標17.7kg以下に対して21.0kgであり目標達成しなかった。車輛毎の燃費についてはドライバーも努力して悪化しない管理がなされており、中期環境目標変更時に指標の変更を対応することにした。
電力由来のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	○	「RPF1t当りのCO <sub>2</sub> 排出量」は、目標77.0kgに対して75.7kgであり目標達成しました。しかしながら、早川工場は、製品成型機の改良でモーターが大きくなった影響があり、昨年度に較べて増加となりました。今後対策を講じて行きます。海老名工場は、成形機の仕様変更で電力使用量は減りましたが、今後生産オペレータの技術水準を上げて生産性向上を図るとともにCO <sub>2</sub> 発生量抑制に努めます。
自社廃棄物排出量の低減	○	社内から出る可燃ごみは、減少に転じた。全従業員のごみの分別の徹底によりRPF化原料が増加しており、焼却ごみは、総量も比率も低下している。
グリーン購入の推進	○	グリーン購入品に限らず環境負荷の少ないものを率先して購入している。吉岡RCでディーゼル車の更新としてバッテリーフォークリフトの導入が行われた。

前回 代表者による全体評価と見直し、指摘事項に対する取組み結果

a)	現在、焼却処分せざるを得ない廃棄物では悪臭物があるが、塩素濃度に問題ない物もある。その燃料化の方法として発酵により水分と臭いを除去するトンネルコンポスト製法がある。今後の課題として「現状対象となり得る廃棄物の排出源や排出量・性状」等の情報収集に取組んで下さい。	「バイオマス資源化センターみとよ」の事業検証により、発酵による無臭化効果は小さく、塩素濃度低減は不可との結果であった。よって、「現状対象となり得る廃棄物の排出源や排出量・性状」の情報収集には至らなかった。
b)	「運搬1ト当の排出量削減」の目標で、1回の運搬量が少ない巡回回収が増加すれば目標に逆行し、4トコンテナ車の回収量が増加すれば目標推進となる。しかし少量排出の巡回回収の増大も重要な事業である。目標設定や指標の取り方等を検討して下さい。	前年レビューで指摘のあった目標設定の変更はしないままであったため、目標数値の達成には至らなかった。回収効率だけでは「運搬1ト当のCO <sub>2</sub> 排出量削減」目標は達成できないので、次回中期目標は視点を変えた設定を行っていく。
c)	自社排出廃棄物の焼却向け排出量の削減目標も重要な目標だが、発生量が少ないので今後の新たな目標を模索して下さい。（監視項目としていく）	自社廃棄物の排出量削減と環境負荷低減は必須項目ですので、中期環境目標変更時に対応する事とした。焼却量も少量であることから、現在の良い状態を維持するように分別排出の管理は行っていく。



## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

### 1) 全体評価

今回の評価結果及び指示内容等

#### ①評価結果

- a) 受託廃棄物の焼却委託比率は、可燃性廃棄物入荷量では、コロナ影響もあったが、吉岡センターの畳受入拡大・早川第2工場の現場回収の増大・工場の新規入荷先開拓もあり、前年とほぼ同量の14,263 tであった。焼却委託量も前年とほぼ同じ1,250 tで、結果として8.8%となり目標（9.5%以下）を達成した。
- b) CO<sub>2</sub>排出量削減は、化石燃料由来の「運搬1ト当りの排出量削減」は、回収先・回収回数が増えた為目標（17.7k g以下）は達成せず、電力由来の「RPF化1ト当りの排出量」は、目標（76.8k g以下）を達成した。
- c) 分別廃棄の自社排出廃棄物の焼却向け排出量の削減は、昼食トレー等の洗浄廃棄等が習慣化され目標（70.0k g以下）を大幅減量（42.5k g）を達成継続出来ている。

監視項目のグリーン購入では、2.5 t バッテリーフォークを導入し、購入比率も60.2%と高水準を維持している。上下水道使用量・化学物質排出量でも問題なく監視出来ていた。再生固形燃料生産量は、2019年度 14,412 t だったが、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻等で 2020年度以降 12,000 t 台と低迷している。

#### ②指示内容

- a) 現在の搬入物からの焼却外注量削減・燃料化量増大や、同業者や排出事業所の焼却廃棄物案件の、燃料化処理受託増大に取り組んで下さい。また、現在増加している剪定枝や雑草等の廃棄物により水分過多・発熱量減少・成形性悪化等の影響に対して、廃プラスチック類を増加する為の営業提案・分別収集・吉岡選別方法・RPF製造技術の検証改善をして、燃料化量増大に取り組んで下さい。
- b) 「運搬1 t 当りのCO<sub>2</sub>排出量」と「RPF化1 t 当りのCO<sub>2</sub>排出量」のデータに加え、「RPF 1 t の使用（出荷量）による石油使用量削減で抑制出来たCO<sub>2</sub>排出量」（CO<sub>2</sub>排出削減量）データを監視検証して、再生固形燃料RPF生産量の増大に取り組んで下さい。
- c) 燃料化リサイクルと共に重要な、資源化リサイクル（古紙・金属・非鉄金属・貴金属・ガラス屑・プラスチック等）の増大にも各部門で取り組んで下さい。

令和5年5月2日

### 2) 見直し結果

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| ① 環境方針の変更の必要性              | ・・・なし |
| ② 環境目標の変更の必要性              | ・・・あり |
| ③ 環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性 | ・・・あり |

このレポートに関するお問い合わせはこちら

電話：0467-77-1847 FAX：0467-77-1936 HP <http://www.tazumi.jp/>

## 10. 新中期活動計画

### 10.1 新中期活動目標

持続可能な社会実現に向けて、廃棄物の再資源化を推進し、化石燃料を代替する

SRF※（再生固形燃料）の製造販売を拡大し、サプライチェーンを通じて地球温暖化対策を推進します。

※現在使用している名称のRPFのR（Refuse）は、廃物・ゴミを意味するので、

今後、弊社では国際的な基準のSRF（Solid Recovered Fuel、再生固形燃料）の名称を使用する事とします。

項目	年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			基準値	目標	目標	目標
1 2025年度までに、全社再資源化量を15%アップする <基準年：2022年度>	全社 再資源化量 (年間合計量)	ト	2,088/年	5%アップ 2,192/年	10%アップ 2,297/年	15%アップ 2,401/年
	全社 再資源化量 (月平均値)	ト	174/月	183/月	191/月	200/月
2 2025年度までにSRF（再生固形燃料）を15,000ト/年 製造出荷する	プラターン出荷量 ※出荷使用されてCO <sub>2</sub> 削減効果上がる	ト	12,404	13,000	14,000	15,000
	プラターン出荷量 (月平均値)	ト	1,034/月	1,083/月	1,167/月	1,250/月
3 Scope1 2025年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む	化石燃料由来 CO <sub>2</sub> 排出量	ト-CO <sub>2</sub>	483,555	507,733	531,911	556,088
	取扱量1ト当りの CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /ト	27.8	(1%削減) 27.5以下	(2%削減) 27.2以下	(3%削減) 27.0以下
4 Scope2 2025年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む	電力由来 CO <sub>2</sub> 排出量	ト-CO <sub>2</sub>	944,324	989,698	1,038,756	1,141,959
	取扱量1ト当りの CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /ト	54.3	(1%削減) 53.7以下	(2%削減) 53.2以下	(3%削減) 52.7以下
5 SRF使用により削減出来た燃料重油量	燃料重油 削減量	Kℓ	8,670	9,087	9,786	10,485
6 燃料重油削減により排出抑制出来たCO <sub>2</sub> 排出削減量	CO <sub>2</sub> 排出削減量	ト-CO <sub>2</sub>	24,697	25,884	27,875	29,866
7 実質 CO <sub>2</sub> 排出削減量の増大 6項のCO <sub>2</sub> 排出削減量から、3項4項の事業由来のCO <sub>2</sub> 排出量を引いた量	実質 CO <sub>2</sub> 排出削減量	ト-CO <sub>2</sub>	23,269	24,387	26,304	28,168

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわない。ただし、環境影響度の高い重要項目として、

数値監視し、必要に応じて、対策を実施する。

監視4項目		監視内容	2023年度～2025年度
1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、焼却向け排出量が増加しないようにする	2022年度の数量：3.5kg/月平均を超えないように監視する
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品は、購入ルールを順守し、購入サイトwebページ上からの購入励行する	事務用品の購入金額を月次で計上し、グリーン購入比率60%以上を維持する。
3	上水使用量を監視する	上水使用量を監視し、適切な機能を維持し無駄な使用が無いように管理する	各部署で水の使用料を計上・監視して、数値のブレがあれば、原因追及して対処する
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において、化学物質は使用していない	購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する

## 10. 2023年度環境活動計画

### 10.2 2023年度環境活動計画

以下に、活動項目を明示する。各部門は、年度計画表に目標を設定し、月次で推移を確認し年度で達成度を評価する。表13に示す。

表13 環境活動計画取組表

	活動項目	管理及び実施項目	推進部門
1	2022年度より、全社再資源化量を5%アップする <基準年：2022年度>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選別作業の効率化の推進</li> <li>資源化物の知識習得</li> <li>効率的な解体作業</li> <li>顧客への質上げ提案</li> <li>部署間の協力</li> </ul>	営業 業務課 吉岡 早川第2 早川・海老名
2	2023年度、SRF（再生固体燃料）を13,000ト/年 製造出荷する	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼却向け廃棄物からの燃料化</li> <li>効率的な選別作業の追求</li> <li>品質規格に合った原料の管理</li> <li>発熱量低下対応の廃プラ集荷の強化</li> <li>新たな燃料品種の検討</li> <li>顧客の要望を適える営業力強化</li> <li>少量排出者に対する対応</li> </ul>	営業 業務課 吉岡 早川第2 早川・海老名
3	Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト/当り）で1%削減する 目標値：27.5 kg-CO <sub>2</sub> /ト以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>車輛毎の燃費の監視</li> <li>確実な車輛点検・適切な対処</li> <li>効率的な回収方法の検証</li> <li>重機・フォークリフト作業の無駄の排除</li> <li>バッテリーフォークリフトの導入推進</li> </ul>	営業 業務課 吉岡 早川第2 早川・海老名
4	Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト/当り）で1%削減する 目標値：53.7 kg-CO <sub>2</sub> /ト以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRF製造時の電力使用量（デマンド）の監視</li> <li>機械設備管理（消耗品交換等）の徹底</li> <li>過負荷停止の削減</li> <li>無駄な電気をしない（消灯・停止等）</li> <li>健康を留意した空調機器の温度設定</li> <li>太陽光発電の導入（再エネ導入）</li> </ul>	吉岡 早川第2 早川・海老名 総務 管理
7	実質 CO <sub>2</sub> 排出削減量の増大 SRF事業によるCO <sub>2</sub> 排出削減量から、事業由来のCO <sub>2</sub> 排出量を引いた削減量	<ul style="list-style-type: none"> <li>2項のSRFの出荷量を増加して、サプライチェーンでのCO<sub>2</sub>排出量の削減</li> <li>3項の化石由来の原単位当りのCO<sub>2</sub>排出量の削減</li> <li>4項の電力由来の原単位当りのCO<sub>2</sub>排出量の削減</li> </ul>	営業 業務課・吉岡 早川第2 早川・海老名 総務・管理

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわないが、環境影響度の高い事項として、各部門で監視項目とする。

1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、3.5kg/月平均を超えないように監視する	全部署
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品は、月次で購入金額を計上して、グリーン購入比率60%以上を維持する	全部署
3	上水使用量を監視する	上水使用量は、適切な機能を維持し無駄な使用が無いように監視し、異常があれば対処する	全部署
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において化学物質は使用していないが、購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する	全部署



1.1. その他、活動実績資料  
1.1.1 各部門 活動実績

**収集運搬業務課**

●燃料化（RPF化）事業について学びました。（2022年9月）

収集運搬業務課では、日頃、さまざまな業界のお客様事業所から、廃棄物を回収しています。今回は、社内の燃料化施設である「海老名工場」において、タズミの進める可燃ごみの燃料化事業について、弊社常務より直接レクチャーしてもらいました。



研修会を通じて、回収された可燃ごみがどのようなプロセスで、燃料化されており、その効果もさることながら、廃棄物から製品を作る大変さや、異物などの混入による設備損傷リスクやリチウムイオン電池の混入による火災のリスクなど、日ごろの回収時にどのような注意を払う事が必要かよく理解することができました。

結果報告	RPF燃焼料の生産方法をあらためて見学出来、積み分けの重要性や、RPF燃焼料の可燃性を再認識した。	日付	R4.10.29
	機械のメンテナンスも、業者任せにして、自分で出来る事はやるという姿勢が素晴らしいと感じ、参考にしました。	実施者	

結果報告	1年前前に海老名工場は1度見学させてもらいましたが、今回改めて見学、勉強させてもらう事により、今後回収作業や、ゴミの氷の工場がどのような流れや工程で行われているかがより一層知る事が出来たのでこの勉強会の事を生かしながら、作業に取り組んで行きたいと思っております。	日付	11/1
		実施者	

●マニフェスト基礎知識、●マニフェスト記入ミス再確認教育

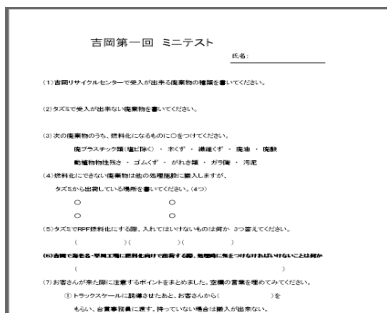
収集運搬業務課では、引取りに際して産廃マニフェストの発行が欠かせません。マニフェストの発行は、廃掃法で定められており、最近では、電子マニフェストを推進していますが、まだまだ紙マニフェストの発行も多く、繰り返し講習会等で学び直しが必要です。



**吉岡リサイクルセンター**

●廃棄物処理事業の基礎知識の確認をおこないました。（2022年8月）

廃棄物を受入れして、処理をおこなうためには、所属する処分場の受入れ可能な廃棄物の種類や受入れ出来ない許可外品など知らない、コンプライアンスを守れない知識が沢山あります。又、処理方法は、後工程である処理物の委託先の基準に合わせる事が必須です。今後も定期的に、小テストを実行して行きます。 例示





11. その他、活動実績資料  
11.1 各部門 活動実績

**プラタン海老名工場**

●油流出防止にかかる作業方法の訓練（2022年7月）

車両関係による油流出の可能性に勘案し、起きた際の対処方法について、実際の作業方法を確認し、いつでもだれでも作業をおこなえるようにする。

使用道具の保管場所



使用方法の説明

使用道具



実際に作業

初期行動の説明

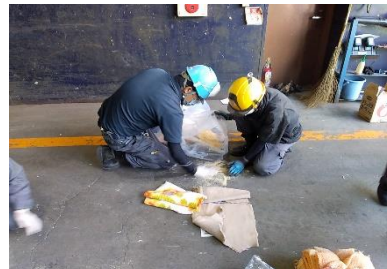
- 広げない・流さない

油流出防止セット

- 置き場の確認

実作業

- 2人一組で作業
- 緊急対応マニュアルにそった作業



油の流出は、対処方法も大切

ですが、原因への対策も必要です。

対応も一律でないので、皆での

話し合いも出来る様にしていきます。

2022年7月28日	油流出防止緊急対応訓練	氏名: [redacted]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
<p>今日の油流出の訓練を受け改めて河川が近く絶対に外に出しては、いけない事を再確認しました。</p> <p>油の除去は第一は解体時に割と良く起る事だったので作業自体は、又之が道具がどこにあるかわかりなかつたので確認出来良かったです。</p> <p>他にも分からぬことや不安点はあると思いますが、気になることは教えてもらいたいね!</p>		

2022年7月28日	油流出防止緊急対応訓練	氏名: [redacted]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
<p>多くの車両が出入り、自社のトラック、フォークリフトも多く稼働しているので、十分に注意し、油の漏れ漏れ箇所もしっかり把握、まずは、油流出が発生を起さない様に行動する。</p> <p>また、油流出が発生した場合、即座に対応出来る様、検閲も</p> <p>油流出時は器具の準備の早急が大切になるので、時々、器具の状態の確認もおねがいします。</p> <p>管理に意識を高めていく。</p>		

●消火バイパス設備操作方法のOJT（2022年12月）

リチウムイオン電池の混入による火災のリスクが高まる中で、炎センサーを設置し、消火栓も自動開放されるようになりました。但し、センサーが働かなかつた場合の、手動開放は、必須です。火災は、いつでもおこりうるものと考え、操作方法の他、どこに何があるのか、どのような働きをするのか誰がどの順序で対処するべきかを確認しました。今後、実践的な消火訓練を繰り返し実施していきます。



2022年12月1日	消火バイパス設備操作方法OJT	氏名: [redacted]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
<p>破砕機からの出火時には、色々なリスクが発生する。</p> <p>不測の事態のために消火設備の改善を実施したがそれでもリスクは防ぎきれないことを現場の人間は理解し、消火設備の奇動作を覚える必要があると思いました。</p> <p>この設備は、ゼロにはならない危険な設備です。火災以外の安全のリスクもぜひしっかり確認し、安全</p>		



2022年12月1日	消火バイパス設備操作方法OJT	氏名: [redacted]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
<p>火災が起きた時の操作手順が理解出来ました。</p> <p>破砕機はエアホースを伸ばし清掃する為、ゴツゴツ当たる可能性もあるので正規の位置をみんなが把握する機会にもなれたと思います。</p> <p>確かに! 正常な状態の確認も必要ですね 全</p>		



11. その他、活動実績資料

11.1 各部門 活動実績

**早川RPF工場**

●初期消火訓練（2022年7月）

破碎機内での火災を想定し、延焼がある場合の対応方法について訓練をおこなった。  
 今回は、新たに配置された作業者がおり、緊急事態マニュアルの事前読み合わせもおこなった。  
 センサー感知から開始 ⇒ 破碎機下部消火 ⇒ 供給機に延焼 ⇒ 成形機も確認



訓練終了後、反省会をおこない、それぞれの対処の評価や役割分担について協議した。  
 大型消火器の活用の必要や、緊急事態マニュアルの改訂も行いました。  
 今後も、継続して取組みを行っていきます。

2022年7月21日	早川工場 初期消火訓練受講記録	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
初めて早川工場での消防訓練を行いました。海老名に比べて工場が小さいので量が多かったです。 只、今回は、無縁で昔木セルが全部燃やしたところまで進む予定でしたが、消火もした余裕があるかな。と自分の冷静に判断して良かった緊急対応マニュアルを定期的に見直し、心掛けたい。		

**早川第二工場**

●重機からの油漏れ対応訓練（2022年8月）

部門長不在時に使用中の重機から油漏れが発生したとの想定で対応訓練をおこないました。  
 雨天での屋外使用時を想定し、雨水枡のキャップ止めも実行しました。  
 油漏れに使用する道具使用                      すぐに回りを毛布・ウェスで囲って作業    雨水枡のキャップ止め



実行後に反省会を実施しました。①道具の置き場を知らない者がいた。②雨水枡の位置も知らない者がいた。  
 又、原因とした重機の油圧ホースについても、構造の理解を深めることができ、重機の適切な点検方法についても、重機操作をおこなわない者も知る機会となった。  
 昨今は、ゲリラ豪雨なども起きる中で、油漏れを起こさない事、もし起きても迅速な対応ができること。  
 良い訓練ができました。

2021年8月19日	油漏れ訓練	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
今回の油漏れ訓練を行いました。しかし、中には手探りで作業しているメンバーの中には、早川第二工場の流出防止の仕組み、また、その場所を知らない方が身に危険な道具の準備ができていないと気づいて、訓練上には、		

2022年8月19日	(開催日をYYYY/MM/DDで入力)	(セミナー等のタイトルを記入) 受講記録	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。			
油が入った破機中の撤入や、現場での取り扱いはあるのでこの訓練も付いたことにより、今後スムーズに対応することが出来る様です。また、自分では雨水枡の存在や中や流路の位置が分からなかった。今日は漏れを想定して、油漏れしない様に注意して作業して行く。			





## 11. その他、活動実績資料

### 11.2 廃棄物処理委託先の施設見学

タズミでは毎年、廃棄物の二次処理委託先への施設見学を行っています。コロナ感染が収束しない中でしたが、本年度は、7社10事業場について視察の許可をいただき現地訪問確認することができました。



#### 株式会社グリーンアローズ関東（神奈川県横須賀市）

2022年11月実施

- 弊社の中間処理後の石膏ボード（ガラス陶磁器くず）の再生処理委託先です  
許可看板



※石膏ボードは、破砕・分別して紙と石膏粉となり、製紙原料、石膏ボード原料、セメント系固化剤原料として再生されています。

※処理は、全て場内で行われ、サイロにもコンベアで搬送されており、粉塵対策がなされていました。

紙と石膏を分離

石膏ボードを粉砕

サイロに保管して、出荷



#### 株式会社ミダック奥山の杜クリーンセンター：管理型処分場（静岡県浜松市）

2022年7月実施

- 弊社の中間処理後残渣の新規委託先管理型最終処分場です。

入口管理棟

許可看板

水処理施設

水処理前の一時保水



管理型埋立場



※弊社は、神奈川県内のかながわ環境整備センター 千葉県の新井総合施設に、受託処理物の約1.4%の処理残渣を埋立委託してきました。この度は、リスク管理の一貫として、兼ねてより焼却物の処理委託で実績のあるミダック様の新しい管理型最終処分場を視察しました。既に第2区画の整備も進みつつあり、非常に良く管理された施設であり、処理委託契約書を締結しました。



## 11. その他、活動実績資料

### 11.3 消防設備設置

昨今、廃棄物中間処理施設やリサイクル施設において、リチウムイオン電池の発火による火災事故が多発しており、弊社でも、入荷された可燃ごみ中に、誤ってリチウムイオン電池の混入が見受けられています。そのような折り、2022年6月 海老名工場 破碎機において、リチウムイオン電池を原因とする小火が発生するに至り、早急な対策が必要であると判断しました。破碎機内・搬送装置・磁選機に炎センサーと散水設備の設置を行いました。同様の消火設備を早川工場にも、設置することでリスクの軽減を行いました。



(破碎機発火時の状況)

#### 《炎感知センサー付き自動消火システムについて》

炎感知センサーを破碎機上部・排出口・磁選機に設置

散水栓ノズルを破碎機上部・排出口・搬送コンベア2か所・磁選機に設置

電磁弁ユニット2か所設置、制御盤・音声付きパトライトを設置する。

#### \*制御方法

各所炎感知センサー作動>破碎機・搬送・磁選機瞬時緊急停止・異常警報作動>作業初期消火活動

>散水栓電磁弁解放散水開始>炎感知センサー停止(消火)>散水栓が閉じる

炎感知センサーは自己診断機能付き、管理項目はセンサー付近の清掃等



制御盤



破碎機センサーと散水栓



磁選機センサーと散水栓



搬送コンベア散水栓

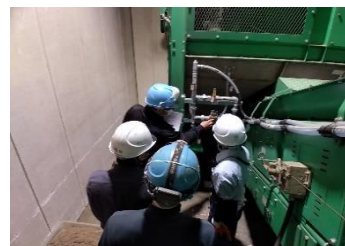
#### 設置以降の対応

設備の概要を説明し、炎センサー稼働時に、散水設備が起動しなかった場合の手動散水の方法について教育しました。

#### 設備の概要説明、



#### 設置設備の説明、散水バルブの手動開放方法の説明



2015年以降約7年間小事故の発生もなかったが、リチウムイオン電池の普及はあらゆる機器に及んでいる。特に分解できない機器(電子タバコ・携帯)は事前に電池を取り出すことが出来ないことから、廃棄物に混入されることが多くなっている。弊社のように可燃性廃棄物を多く扱う事業では、小火の段階で消火できないと、施設自体の大規模火災となることから近隣への影響も事業自体の継続さえ困難になる。予期せぬ事故にならないように、排出事業者の分別周知活動や選別施設での除去の徹底、消火設備の設置や火災事故が発生した際の初期消火訓練と日々の点検を確実にを行い火災事故の無い工場運営を行って参ります。



# 11. その他、活動実績資料

## 11.4 環境保全関連寄付の実施



タズミでは毎年、事業所のある自治体と県に環境保全・緑化保全に対して寄付を行っています。今年度も、かながわトラストみどり基金・綾瀬市・海老名市に寄付しました。

### 神奈川県



小板橋副知事、社長

### 綾瀬市



古塩市長、社長、専務

### 海老名市



内野市長、社長、常務

海老名市 2022年7月  
県立相模三川公園

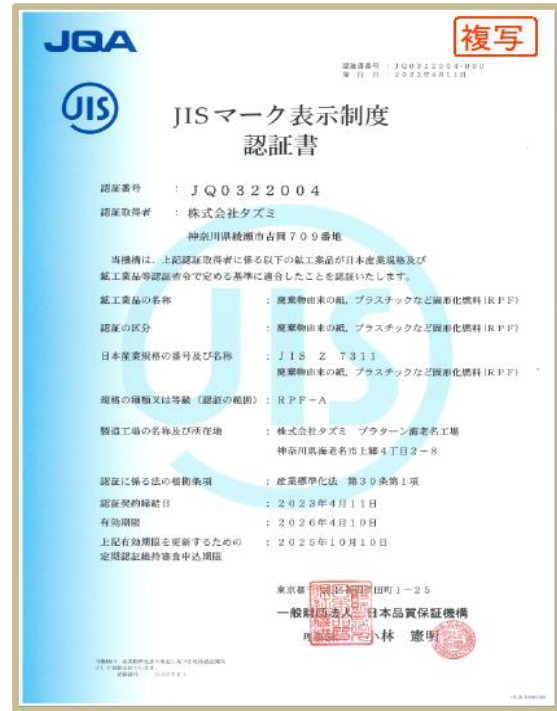
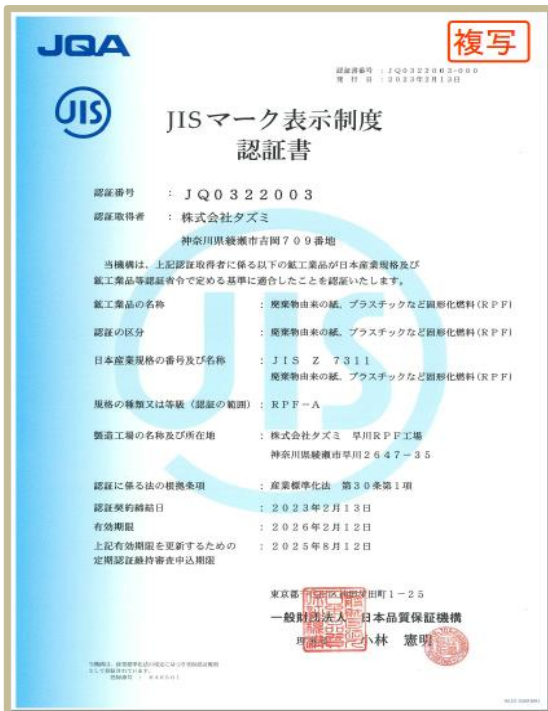


## 11. その他、活動実績資料

### 11.5 「JISマーク表示認証」の取得

弊社の進める再生固形燃料製造2工場「早川RPF工場」「プラターン海老名工場」において、「JISマーク表示認証」を取得しました。

日本産業規格の番号及び名称： JIS Z 7311  
廃棄物由来の紙、プラスチックなど固形化燃料（RPF）  
規格の種類又は、等級（認証の範囲）： RPF-A



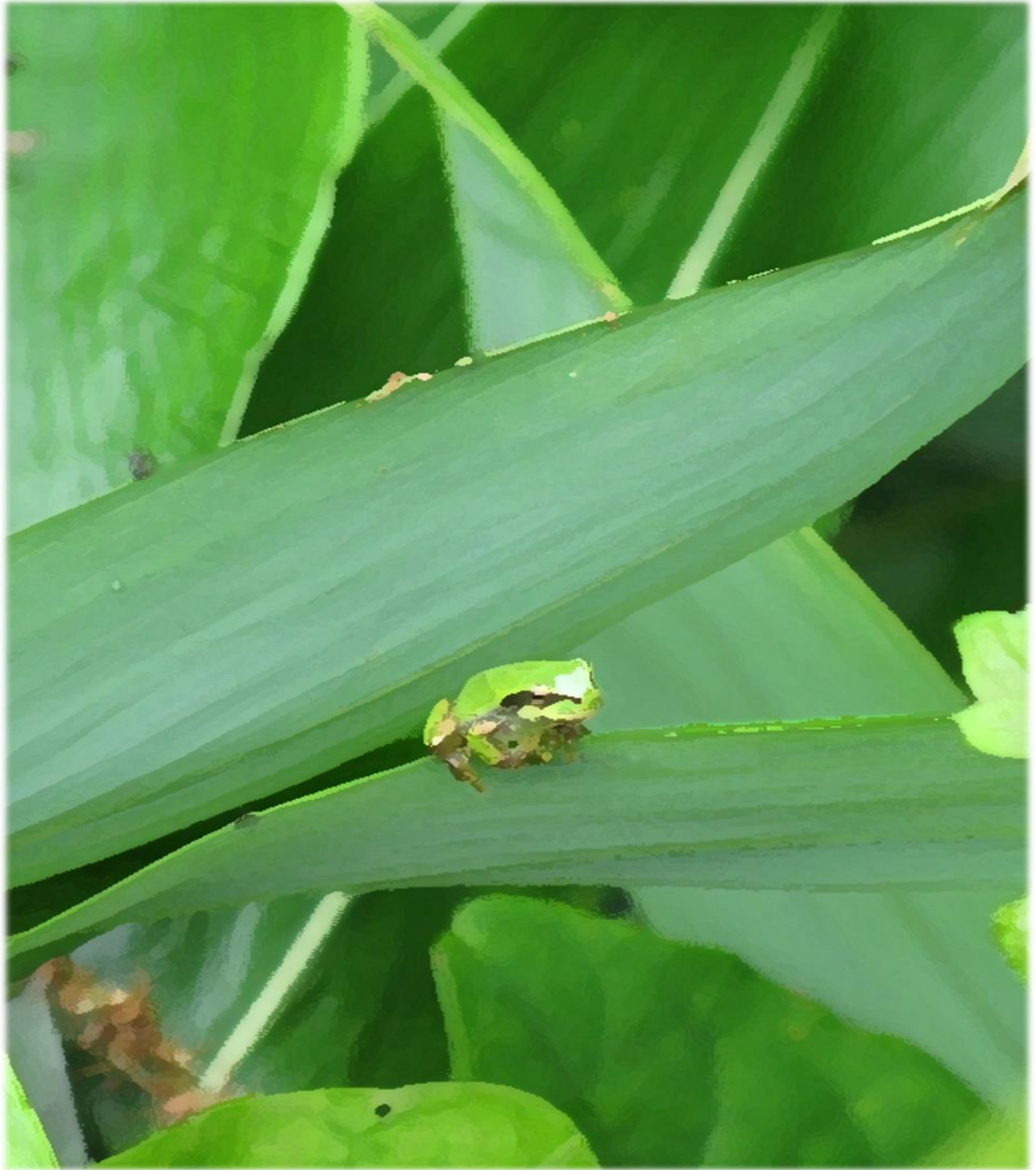
JISマーク表示認証取得により、タズミの製造する再生固形燃料（RPF）をJISマーク品として購入いただける状況となりました。引き続き燃料品質管理を確実に実行して、お客様から信頼される製造事業者で在れるよう努めて参ります。



RPF-A



運搬トレーラー



**Tazumi**

株式会社 タズミ





<地図>



株式会社 タズミ

本社・吉岡リサイクルセンター  
 〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡709番地

早川第2工場  
 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2647-32

早川RPF工場  
 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2647-35

プラタン海老名工場・海老名第2工場  
 〒243-0434 神奈川県海老名市上郷4丁目2-8

TEL:0467-77-1847 FAX:77-1936

TEL:0467-53-8907 FAX:53-8908

TEL:0467-71-3792 FAX:71-3793

TEL:046-292-2251 FAX:292-2252